

# ニクス済生

THE NEWS SAISEI



発行所 社会福祉法人ニクス済生会  
東京都港区三田1-4-28 三田国際ビルディング21F 〒108-0073  
電話 03-3454-3311  
FAX 03-3454-5576  
編集兼発行人 炭谷 茂

https://www.saiseikai.or.jp/

## 沖縄最優先に支部設立

### あり方検討会 未設置県には福祉施設も



第6回支部未設置県解消等済生会の基本的あり方に関する検討会が5月16日に本部で開かれた。事務局が「支部設立(復活)に関する当検討会の検討結果について(案)」と題し本会が未設置県に支部を復活することを目指す二つの理由について「本会の理念に基づく活動を全国遍く地域に提供」「新興感染症や大規模災害時における迅速かつ効果的な支援」「各県の実情に合わせた医療・福祉の提供」と説明した。

委員からは「地元の見を幅広く聞いてほしい。はじめに行政との協議を行ない医療・福祉の関連団体と協議をしていくことになるのでは」「済生会ならではの事業を行なうには福祉施設も併せて設立すべき」との意見が上がった。

次に復活を優先する沖縄県の医療・福祉の現状について解説。「沖縄県は歴史的・地理的に他県と置かれた状況が大きく異なり、社会的な支援を要する人が多い。抱えている問題も他県より深刻であることから、支部設立を急ぎ、病院・福祉施設を通してサービスを展開していく必要がある」と提案があった。

最後に事務局から検討会の骨子の説明があり委員からは「ソーシャルインクルージョンに基づくまちづくりは行政とのパートナーシップが必要不可欠。その点を骨子に含めてほしい」「令和基金については支部未設置県における医療機関の設

立等大規模事業に充てることを企図しているようだが、寄付者を外部に限る必要はない。法人として重要な事業であり本会役員にも募ってほしい」「本会の理念は東南アジアを中心とし国際的に広げる価値があると思われ、そのことも報告書で触れた方がよい」との意見が出された。

次回7月22日開催予定。当検討会の最終報告が行なわれる予定。(総務課・総合戦略課)

## 12議案を可決

理事会

第6回理事会が6月14日、本部とWebのハイブリッド方式で開かれた。12議案が上程され、全て原案通り可決された。報告事項は6件だった。

【議案】①令和3年度事業報告及び決算(案)②基本財産の処分③定款の一部変更④基本財産の担保提供⑤資金借入の承認⑥新潟・県央基幹病院(仮称)の指定管理受託⑦令和3年度施設整備計画の変更⑧令和4年度施設整備計画の変更⑨令和4年度施設整備計画の変更⑩会計監査人の報酬⑪支部長の選任⑫理事長が定める施設の長の選任⑬評議員会の招集

【報告】①支部未設置県解消等済生会のあり方に関する検討会の答申骨子②新型コロナウイルス感染症に関する本会の対応③第三次なでしこプラン令和3年度事業実績④令和3年度内部監査等実施結果⑤令和4年度民間助成団体の補助事業⑥令和3年度資金運用状況(総務課)

## 4議案を審議

施設運営委員会

施設運営委員会が5月31日、本部で開かれた。審議4件、報告7件だった。

た。

## 新任施設長の抱負

〔広島〕介護老人保健施設はまな荘



昭和三十二年生まれ。広島県出身。46年広島大学医学部卒、同大学附属病院勤務。平成6年同大学助教授、18年広島病院院長、22年広島県済生会業務担当理事を経て、26年支部長就任。令和4年4月からはまな荘施設長を兼任。

「当施設は、ケアハウス・デイサービス・訪問入浴・配食サービスを展開しております。利用者の人権を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努める」を理念とし、唐津医療福祉センターの一員として、地域の方々に信頼される施設を目指して努めてまいります。」

## 春の叙勲

4月29日 本会関係者

- 旭日双光章 元新潟病院検査部参事 本望 鏡一氏
- 瑞宝中綬章 元新潟県済生会理事 森 邦雄氏

「当施設は、ケアハウス・デイサービス・訪問入浴・配食サービスを展開しております。利用者の人権を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努める」を理念とし、唐津医療福祉センターの一員として、地域の方々に信頼される施設を目指して努めてまいります。」

昭和三十五年生まれ。佐賀県出身。58年西南学院大学法学部卒、唐津病院入職。令和4年4月所長に就任。

昭和三十九年生まれ。長崎県出身。51年長崎県立国際経済大学卒、十八銀行に入行。社会福祉法人十善会事務局長、学校法人活水学院事務局長を経て令和4年4月施設長に就任。

昭和36年生まれ。熊本県出身。59年琉球大学卒。60年熊本県公立学校教員に採用。平成28年熊本かがやきの森支援学校校長。30年熊本専門学校長。令和4年4月園長に就任。

昭和39年生まれ。長崎県出身。51年長崎県立国際経済大学卒、十八銀行に入行。社会福祉法人十善会事務局長、学校法人活水学院事務局長を経て令和4年4月施設長に就任。

昭和36年生まれ。熊本県出身。59年琉球大学卒。60年熊本県公立学校教員に採用。平成28年熊本かがやきの森支援学校校長。30年熊本専門学校長。令和4年4月園長に就任。

昭和39年生まれ。長崎県出身。51年長崎県立国際経済大学卒、十八銀行に入行。社会福祉法人十善会事務局長、学校法人活水学院事務局長を経て令和4年4月施設長に就任。

昭和36年生まれ。熊本県出身。59年琉球大学卒。60年熊本県公立学校教員に採用。平成28年熊本かがやきの森支援学校校長。30年熊本専門学校長。令和4年4月園長に就任。

昭和39年生まれ。長崎県出身。51年長崎県立国際経済大学卒、十八銀行に入行。社会福祉法人十善会事務局長、学校法人活水学院事務局長を経て令和4年4月施設長に就任。

昭和36年生まれ。熊本県出身。59年琉球大学卒。60年熊本県公立学校教員に採用。平成28年熊本かがやきの森支援学校校長。30年熊本専門学校長。令和4年4月園長に就任。

昭和39年生まれ。長崎県出身。51年長崎県立国際経済大学卒、十八銀行に入行。社会福祉法人十善会事務局長、学校法人活水学院事務局長を経て令和4年4月施設長に就任。

## 高松宮記念基金にご協力ください

令和4年1月～5月分実績

◎本会会員加入状況 40,054人 81.3%  
44,883口 8,979万円

◎外部会員加入状況

◎一時寄付状況 9件 23万円  
(内、自販機関係 5万円)

◎募金箱 23万円

た。

た。

## 薬剤部長協議会

### 76人が参加し討議

令和4年度薬剤部長協議会が5月27日本部で開かれ、全国から薬剤部長76人が出席した。

炭谷茂理事長から挨拶及び基本説明があり、その後、松原理事がコンプライアンスや情報セキュリティの強化など重要事項を説明した。

続いて以下の本部業務説明が担当課から行なわれた。

①令和4年度予算②支部未設置県解消等済生会の基本的あり方に関する検討会の検討概要③DXに対する取り組みと情報

セキュリティ対策④新型コロナウイルス感染症に関する本会の対応⑤寄付金獲得策の強化⑥病院経営状況(R3・R4・R5)

最後に済生会総研の活動報告があった。(総務課)

## 医療施設事務長会議

### オンラインで88人

令和4年度医療施設事務長会議が6月9日本部で開かれた。オンラインとハイブリッドで開催し88人が出席した。

炭谷茂理事長が挨拶及び基本説明、松原理事がコンプライアンスや情報セキュリティの強化など重要事項を説明した。

続いて本部業務説明が担当課から行なわれた。

①令和3年度決算②令和3年度病院経営状況③支部未設置県解消等済生会の基本的あり方に関する検討会の検討概要④DXに対する取り組みと情報

セキュリティ対策④新型コロナウイルス感染症に関する本会の対応⑤寄付金獲得策の強化⑥病院経営状況(R3・R4・R5)

最後に、済生会総研の活動報告があった。(総務課)

## 訪看ST管理者研修に57人

訪問看護ステーション管理者研修が5月19～20日に本部で開かれ、57人(うち新任11人)がオンラインで参加した。

1日目は炭谷茂理事長が「看護に関する済生会

を引き出し、育み、生きていく力の基礎づくりをする」という理念のもと、子どもたちへの支援はもちろん、園と保護者が車の両輪となった子育てを目指し、実践の充実を目指してまいります。」

原論「歴史の転換期での済生会の基本的方向」と題して講演。ウィズコロナ・アフターコロナの中で済生会は、地域包括ケアのトップリーダーとして総合的な医療・福祉サービスを提供していかねばならない」と訴えた。

日本訪問看護財団の佐藤美穂子常務理事は会員向けに行なったコロナ対応の実態把握調査を説明。医師やケアマネジャー等職種間での感染に対する認識の差、病院での面会制限からがん末期患者の在宅での看取りの増加な

どが報告された。2日目は全国6ブロックの代表が活動内容や課題を報告。山形訪看STの平由美子氏(東北北海道)、三田訪看STの坪むつみ氏(関東)、三条訪看STの阿部育子氏(北信越)、炭木訪看ST

の西森麻喜子氏(近畿)、今治訪看STの西野憲子氏(中国)、訪看STせんたいの湯之前瑞穂氏(九州)が地域連携や人材育成の取り組み等を発表。新型コロナウイルス対策などをテーマにグループワークも実施した。(看護室)



### 京都済生会病院 名称新たに移転新築 まちづくりにも参画

京都府病院が「京都済生会病院」と名称を新たに移転新築、6月1日に入院患者移送を伴ない、3日から外来診療を開始した。



京都済生会病院



加須病院

割増。旧病院から直線で約1.5キロの長岡京市の南部にあり、阪急西山天王山駅と高架歩道で直結、利便性が向上した。26診療科、288床は旧病院と同規模だが、病室の46%を個室化、画像下治療とコンピュータ断層撮影を同じ検査室でできる「IVR-CT」、2D透視や3D画像撮影機能を備えた術中イメージングシステム「O-arm」など高度医療機器を導入。感染症診察室を備えた広い救急スペースを確保、手術室6室、HCU12床、化学療法室、透析センターなども拡充、周産期・小児医療機能も充実させた。

関係機関との連携では、乙訓医師会、休日急診診療所を当該敷地内の別棟に移転。小児科病棟に産学連携によるホスピタルアートの導入、障害者支援団体によるカフェの出店など、まちづくりにも取り組む。

5月22日の竣工式典には、西脇隆俊京都府知事(支部会長)、炭谷茂理事(支部会長)が列席。中村直登支部長は「医療機器の整備や診療部門の充実により、地域の医療機関と連携しながら切れ目のない医療を提供していきたい」と挨拶、吉田憲正院長は「新病院では今まで以上に質の高い医療を提供し、施業救済の済生会精神を全職員で共有し、住民の健康づくりに貢献したい」と抱負を述べた。

新病院は、栗橋病院から直線約10キロの位置にあり、同じ利根保健医療圏に属している。東武伊勢崎線「加須駅」南口から徒歩10分。地上7階建て、敷地面積は約4万1000平方メートル。災害拠点病院として、免震構造を採用し、大規模災害時にも病院機能の維持が可能。救命救急センターには、救急車と救急隊員が24時間滞在する県

内初の「常駐型救急ワークステーション」が併設されている。外科分野では、低侵襲手術支援ロボット「ダビンチ」が導入され、患者への身体的負担が少ない手術が可能となる。

開院日の6月1日には入院患者の移送が無事に完了。携わった約300人のスタッフが前に長原光院長は「栗橋病院では全職員が新型コロナウイルスと通常診療の両立に全力で取り組んだ。加須病院ではこれに加え、3次救急の充実、ロボット手術の発展、ハイブリッド手術室を使用した心臓血管系治療の確立といった新たな分野に取り組む。加えて予防医学の増進、健康寿命の延伸といった「健康なまちづくり」にも貢献していく」と決意を新たに示した。

- 寄贈**
- 山形県済生会 50万円 (愛日荘)
  - 栃木県済生会 100万円 (宇都宮病院)
  - 内藤秀子殿 100万円
  - 埼玉県済生会 100万円 (川口総合病院)
  - 箕田総業(株)殿 100万円 (鴻巣病院)
  - 神奈川県済生会 100万円 (武田 清殿)
  - 石川久枝殿 50万円 (横浜市東部病院)
  - 静岡県済生会 100万円 (朝比奈史子殿)
  - 静岡済生会総合病院へ 100万円 (若林保良殿)
  - 京都府済生会 200万円 (京都府病院看護部一同)
  - 兵庫県済生会 50万円 (西岡茂晴殿)
  - 50万円 (中野美津子殿)
  - 兵庫県病院へ (兵庫県病院)

## コープみらい、本会に米6.6ト

生活協同組合コープみらいがコロナ禍における生活困窮者への支援と日本米づくりに心を配るため、済生会に合計6.6トンの精米を済生会に

寄贈。6月3日に東京都荒川区の「コープデリ町屋センター」で寄贈式が行われた。

式にはコープみらいの新井ちとせ理事長と永井伸二郎副理事長、済生会は炭谷茂理事長と松原了理事、鴻巣病院と向島病院の関係者が出席。コープみらいの新井理事長は「生活に困っている方へ手を差し伸べ、きめ細かな支援を行き届かせるには、済生会のような地域に根差して活動する方々とのパートナーシップが重要。コープみらいは『助け合いの組織』として地域の活動に積極的に



関係あり、連携していき

た。 関わり、連携していき

た。 関わり、連携していき

た。 関わり、連携していき

た。 関わり、連携していき

た。 関わり、連携していき

いついかなる時も、いちばんそばに。

安心と安全で、社会を支える。それが1879年から変わらない、私たちの約束です。

万が一に遭った時の「いざ」はもちろん、新しく挑戦する時の「いざ」まで、「いついかなる時も」頼りになりたい。

目指すのは、お客さまを最もよく知り、「いちばんそばに」寄り添う存在です。

だからこそ私たちは、もっと一人ひとりに向き合います。

人とデジタルの力を合わせ、リスクの対応だけでなく、リスクの予測・予防を通じて、「いついかなる時も」お役に立ち続けます。

リスクを知り尽くしたプロフェッショナルとして、人生のあらゆる「いざ」を支える存在へ。

いついかなる時も、いちばんそばに。東京海上日動の新しい決意です。

To Be a Good Company  
東京海上日動

安全で安心な地下水を使って

水道料金の削減 + ライフラインの確保

「地下水活用システム」で実現

TOHO Co.,Ltd. 株式会社トーホー

より良い環境を未来へ

http://www.tohoinc.com/

本 社/東北支店 〒994-0063 山形県天童市東長岡4-2-17  
東京支店 〒110-0016 東京都台東区台東2-25-6 勝徳ビル  
TEL: 03(3835)0191(代) FAX: 03(3835)0195